

# 江戸の人育てと待つ勇氣

～ 人を信じて、生まれる希望 ～

第十一回  
江戸に幸福力を学ぶ人情噺の会  
(旧久松町倶楽部)

蘊蓄齋ひげ丸

# 江戸に幸福力を学ぶ！？

- 子供のもつ幸福力ってすごいですよね。
- 江戸のつながり、コミュニティの豊かさ  
に目を向けたい
  - やさしさと包容力
  - いまや放送禁止の盲人噺、与太郎噺等々もたくさん → それはなぜ？
  - 環境もいいけど、他者へのまなざしこそ。
  - まさに、ダイバーシティ（多様性）を認め合う社会
- 落語には、そんな人情がいっぱい。

さて、本日のメインは、江戸幸の  
アイデンティティともいうべき

**「百年目」** という人情噺

大旦那さんと番頭さんの噺  
【社長と専務の関係】  
(設定としてはあまりなく)

# いくつかの舞台設定

- **江戸の遊び**

- **お花見** → **山桜** (ソメイヨシノは幕末から明治)
- **舟遊び** → **芸者衆や太鼓持ち**

- **大店の小僧さんから番頭さんになるまで**

- 当時のOJTの様子
- 上司の部下の関係性
- 商売の鉄則
- 持つ、持たれつの関係

# さて、落語の（人情）噺は 親の心子知らず系が多い

遊びが過ぎる若旦那と親旦那さんや  
周囲の人々との関係



「落語で江戸を聴く」 槇野修氏より

# 「よかちょうろ」より

- 「お前さんはね、うちに兄弟があれば、とうにうちに置く男じゃないんだ。たった一人だから、黙っていけばいい気になりやがって、悪いことばかり覚えて、うちの用をするじゃなし、子供じゃなし、二十二にもなって、世間様を見なさい、えッ、みっともない」
- 「～（略）～ そうして人に馬鹿にされて、お金を無駄に使う。そりゃあたいはね、親だから許しても、天が許さない、終（しま）いにおまえ、金罰が当たるよ」

# どの放蕩息子の嘸も、実は若旦那を 嫌な若者とは描いていない

- 道楽の末に、勘当もされるが、世間様の風に当たり、最後には改心して勘当が解け、そのうち立派な旦那になるということが、暗示されている
- 若い時分の過ちとみんなが安心して、聴くことができ、若旦那の遊びっぷりを笑い飛ばせる

# 叱る親もその昔、若い時分は 同じように遊んでいた

- 「まあいいや、わけえうちはそれくれえ（勘当されるくらい）元気のあったほうが、まあ、なんだよ、道楽のひとつもしてなくちゃ、人を使っても、思いやりがなくていけねえ」
  - 「湯屋番」の湯屋の主人の鉄五郎の奉公の紹介状を持ってきた、勘当中の若旦那へのことばで、道楽の末にこそ、情のある商売人になれると同情を示す。
- やがて、その若旦那が、心を入れ替えて、しっかりした親旦那になるものの、自分の息子の放蕩ぶりに手を焼く、という循環も見えてくる。



人間てゝものは、  
つらい苦しいという峠を  
越さないで、  
人というものになりそこなうよ

かんしゃくの一時的に実家に戻っ  
てきた娘に、父親が諭す言葉

本日のテーマは、私たちの  
**時間に対する想像力**

ではないかと勝手に  
ひげ丸は考えております

**世代を繋ぐ、またぐ**ということ  
受け継ぐ、引き受ける**覚悟**  
そして、  
**不確かなものを待つ勇氣**

**時間といえは、子育て。**

**正解はないですし、野菜のように  
時間を縮める促成栽培も、もちろ  
んできないですし。**

# 子育ては、親育てなのです

児童心理学者 佐々木正美氏

●最初から、完璧な親である人はいません。

●誰もが悩みながら、親になってゆきます。

著書：子どもへのまなざし より

# 人を信じる気持ちを取り戻す

- **おとなも傷つきやすくなった**
  - 一人ひとりが孤独になりばらばらになってしまったために孤立してしまい、傷つきやすくなった
- **基本的信頼が重要**
  - ベーシック・トラスト エリクソン（米）
- **人を信じる力は、自分を信じる力と同じ**
  - 怒られたりすると受け入れることが難しく
  - モンスター○○、だれかのせいにする
- **大人自身が、人の善意を信じて、地域の人々と関わりあいながら生きることが重要**
  - それを子どもは見ています。

# ひげ丸が某お役所職中、父親の子育て論 で、感銘を受けた方

## ・ 土堤内昭雄さん

– ニッセイ基礎研究所 主任研究員



- 2人の「子育て」をサポート (50代)
- シングルファザーとして育児奮闘
- 2004年に「父親が子育てに出会う時」を出版
- 常に「今が人生の一番よい時」と思えるように生きる!
- 次世代育成における企業の役割について  
「グッド・ライフ・バランスのすすめ」を各地で講演

–



## 「父親が子育てに出会う時」

# 育児とは？



## 1) 子育てをサポートするのが子育て

- 子供の持っている力を適切な時期に顕在化させるようにサポートする事

## 2) 子供はゆっくり育つ

- 子供の成長のペースに合わせて。
- 一人ひとり固有の育ち方を持っている

## 3) 親は子から、子は親から自立するために個を育てる

## 親という字は、

- **立つ木**を見ると書く
- **親**は子供を森や山に連れて行き、**木**がどう生きているのか、**木**が私たちに何を教えてくれるか**話**してやらなければいけないよ。それが**親**ってうものだ。
- 素直な、謙虚な気持ちで見なければ、山に入っても何も見えないんだよ。
- それでは親は失格、人生やり直した。
- 木には、長い時間が蓄積されている。
  - 人間の存在がわかる。時間の意味を知る。



**3代前のご先祖が植えた木を  
我々が切って、食べている**

**森に流れている時間と  
都会に流れている時間は違うと  
言われています。**

# 待つということ

- **快適の代償**という2007.11.13産経新聞記事より
- **鷺田清一**著「待つということ」より
- **待てない人たち**
  - **通勤時間の電車の遅れ、5分でいらいらする**
    - **約57%**
    - **10年前は、約20%**
      - **平成15年：首都圏400人のビジネスパーソン**
      - **シチズン調べ**
- **ダウンロードの時間、クリックの反応**
  - **どのくらい、待てますか？**

**今の時代の子育ては**

**先回り育児というそうです**

**子供の成長をじっくり親が待てない  
ものを長い眼で見る余裕がなくなった**

**お互いに、信じる力を失っている  
思ったように育てたい**

**7代後の未来世代から  
地球を借りて  
我々は今を生きている**

**アメリカインディアンの教え**

**孫のクレジットカードを借りて  
毎日を暮らしているような日本は？**

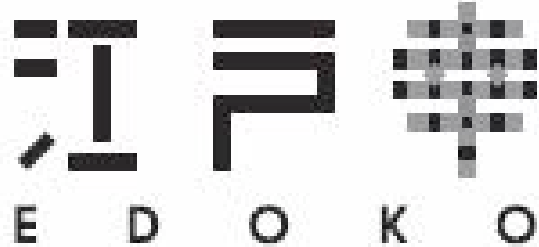
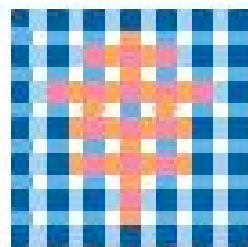
**人々に「未来」などない。  
あるのは「希望」だけだ。**

**Ｉ・イリイチ  
最後の著書「生きる希望」より**

**(希望が未来づくりのエンジン)**

# 最後にちょっと若旦那の擁護も

- お江戸でござる。杉浦日向子さんより
- 若旦那が遊ぶのは、大旦那を継いだときに客を接待する技を学ぶため
  - うまいお遊び方に生きたお金を使うことを学んで来い
- 店は主のものと思うべからず。店を譲り受けてまた、譲り渡すまでの奉公人と思うべし



ありがとうございました

蘆蓄齋ひげ丸

